

令和元年6月21日

保護者様

横浜市立山内小学校
校長 佐藤 正淳
児童いじめ防止委員会

第1回山内小児童いじめ防止委員会の報告

日頃より本校の教育活動に多大なるご支援ご協力をいただきありがとうございます。

5月27日（月）に、3年生以上のクラス代表、神奈川県警の方々、青葉区役所の方、地域の皆様、主任児童委員、PTA、教職員が本校体育館に集まり、「第1回山内小児童いじめ防止委員会」を行いました。いじめ防止委員会の取組は、今年で4年目になります。児童が主体となり、学校・家庭・地域が力を合わせていじめをなくし、安心安全な山内小学校を目指す、本校独自の取組です。第1回の話し合いについてご報告させていただきます。

【テーマ】 「あったかハート」でいじめ0（ゼロ）の山内小学校をつくろう

【参加者】 3年生以上クラス代表児童2名
神奈川県警の方々 青葉区役所の方
地域の皆様 主任児童委員
PTA役員 教職員



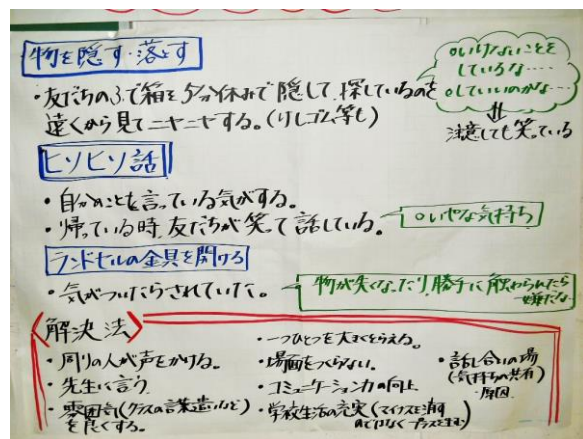
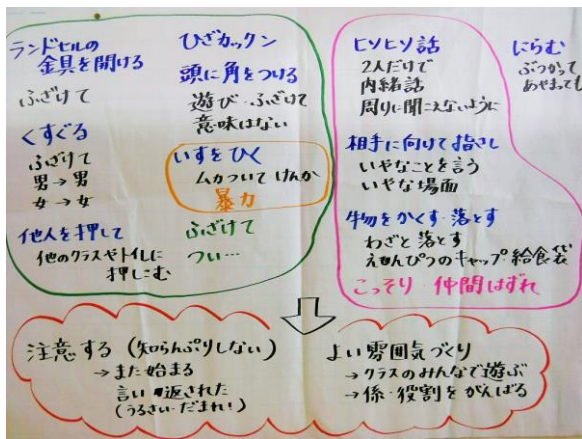
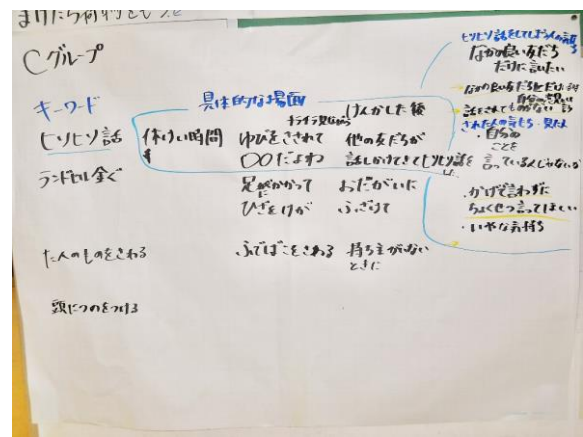
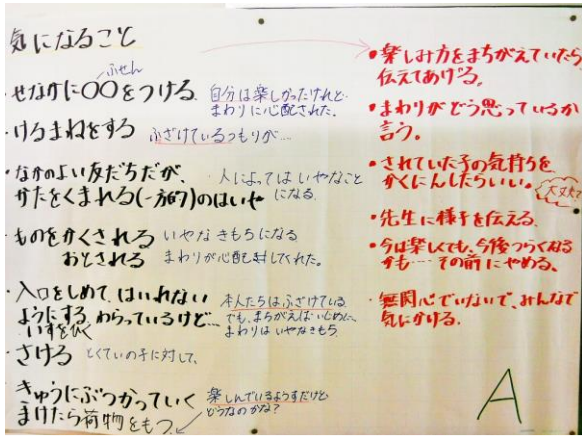
【内容】 「どんな行動がいじめにつながるのか考えよう」

【報告】

今回は、いじめにつながる可能性のある具体的な行動に関するキーワード（例、「蹴る」「物を隠す・落とす」「さける」「授業中に邪魔をする」「ヒソヒソ話」「冷やかす」等）から、いじめについて考えていきました。グループごとに普段生活している上で気になるキーワードを選び、体験したことや、その時の気持ちを出し合いました。併せて、選んだキーワードについての解決方法や、実際にそういった言動があった時の対処方法についても話し合いました。



【各グループの話し合いから】



- 「いじめにつながる可能性のある行動」について、やっている側は楽しんでいる傾向にあり、いじめにつながると感じていない。楽しみ方が間違っていることを周りが気づいて教えてあげる必要がある。
- 他人に対して無関心であることが、いじめを助長させる原因となっているのではないか。
- 相手に対して注意をした際、言い返されることもある。それでも周りが注意することが大切である。その為に、クラスレクなどを通して、クラス全体が仲良くなり、話し合える関係を作る必要がある。
- いじめにつながる行動を見た時は、周りの信頼できる大人に話をすることが大切である。
- 生活習慣を直すこともいじめを作り出さない大切な要素になる。
- 雰囲気良く相手に注意したり、周りに声をかけたりができるとうい。その為に、コミュニケーション能力を向上させながら、学校生活を過ごして欲しい。
- マイナス要素を減らすように努力するのではなく、プラス要素を充実させることもいじめ防止の観点から大切にしたいことである。
- 小さなことも、大きく捉え、クラス皆が気持ちを共有し合い、話し合いを設けることでいじめを防いで欲しい。

※7月18日には、よこはま子ども会議（小中ブロック）が山内中学校で開かれます。8月末には、よこはま子ども会議（青葉区）が青葉区役所で開かれます。山内小児童いじめ防止委員会で話し合った考えや思いは、小中ブロック、そして青葉区へと発信していきます。

【参観された方々から】

- こんなことがいじめに？というような「からかい」が事例に多く並んでいました。だからこそ、自分自身の日頃の行動を見直していく必要があるのではないのでしょうか。
- 何気ない言動がいじめにつながることを改めて自覚するとともに、みんなで注意し合う関係を作って欲しいと思います。
- 是非、今日話し合った内容をクラスに持ち帰り、クラスごとに共有し合っただけで欲しいと思います。併せて、参加した大人も、今日話し合った内容を地域に持ち帰り、共有し合う必要があります。学校と地域との両面からいじめを無くしていけたら良いのではないのでしょうか。
- いじめをする人のほとんどに心の乱れが見られます。強い心をもって欲しいと思います。併せて、生活習慣の見直し、「早寝、早起き、朝ごはん」を通して、生活リズムを整えることで、いじめを未然に防ぐ生活を送って欲しいと思います。
- 大人の中にも、今日取り上げた「いじめにつながる可能性のある行動」は、見られます。大人の中にもいじめやいじりに対して困っている人がいて、解決は困難を極めています。小学生のうちから、いじめについて真剣に考えることで、将来少しでもいじめが無くなっていくことを願っています。

【学校長より】

- 何か人の為に良いことをしよう、やってあげよう、という気持ちを大切にしてください。人の為に何かできる人を増やすことが、いじめを無くすことの近道なのかもしれません。本当の意味でも、「あったかハート」な山内小学校を作っていきます。今後、いじめ防止委員会の皆さんが中心となって、いじめゼロの山内小学校をつくっていきます。

【児童の感想】

- 各学年で実際に見られるトラブルを知り、学校全体で本気で取り組まなければいけないと思った。また、大人の話聞いて、具体的に何をどうすれば良いのか、よくわかった。
- 今まで自分にはあまり関わりがないと思っていたいじめが、グループでの話し合いを通して、みんなに関係があるのだと改めて考えさせられた。
- 話し合いの中で、普段よりたくさん発言できたことに自分自身が驚いた。先生がたくさん発言できるように話を振ってくれるからだと思う。いじめについては、体験したことや想像したことをもとにグループで意見を出し合い、解決策を出すことができたので、今後、クラス、学校全体、地域でもこの経験を生かしていきたいと思った。
- 「自分がやっちゃったことなるな〜」「やられたことあるな〜」と思いながら、メモをとることができた。いじめの解決方法を考えるのは難しかったけど、山内小学校がいじめ0（ゼロ）の良い学校になると思うと、何だかうれしく感じました。
- 1年生の頃、ランドセルじゃんけんを帰り道にすることがあった。今回のいじめ防止委員会を通して、もしかすると、自分の行動がいじめにつながっていたのかもしれない！と思った。これからは、自分がしていることが相手をどういう気持ちにさせるのか考えて生活していきたいと思った。
- 小さなトラブルや「からかい」もいじめにつながってしまうことに気付いた。今後も無くすことができるよう心がけていきたい。いじめの防止についてクラス皆で話し合い、解決策を出し、いじめ0（ゼロ）をめざしていきたい。
- いじめについて色々な人の話が聞けてうれしかった。また、意見を上手く言えて良かった。

【来賓の方々の感想】

- 児童の皆さんの「いじめ防止」に対する意識の高さを感じました。「おかしいな」「変だな」と思ったら、勇気をもって「大丈夫?」「それはやめた方がいいんじゃない?」と声を掛けると、いじめにつながらなくなるのだらうと思いました。今後の児童の皆さんの取組に期待しています。(地域の方)
- 話し合いを通して、児童たちがそれぞれ多かれ少なかれ、いじめにつながるワードや行動を目にしたり、体験したりしているのだと思いました。ただ、いじめにつながる行動を防ぐことが一番大事ではあるものの、いじめが発生した時にどうするのか?どう次につなげていくのか?反省も踏まえて考えていかないといけないと思いました。本当の「あったかハート」は、いじめを隠すことではなく、いじめの存在を認め、考えていくことだと思います。そうすることで、真の「あったかハート」な山内小学校になれると思います。次のいじめ防止委員会では、その辺りの話し合いも聞きたいと思いました。(PTA)
- 大人と子どもの混ざったグループワークの中で、子ども達の感じたことについて、しっかりと向き合った話し合いが行われていました。いじめになる前の段階のじゃれ合いやいたずらも、繰り返されればいじめへとつながります。そこに気付ける優しい子が、山内小学校の児童には多いと思いました。(PTA)
- 先生方をはじめ大人がたくさんいる中で、自分の意見をしっかりと言うことができる子ども達が多く、すごいなあと思いました。(PTA)
- 小さな悪ふざけと表現することもできるけれど、日常生活にはいじめが入り込んでいるのだなと、児童の話聞いて思いました。児童から挙げられたキーワードを基に、具体的な場面が語られイメージし易かったです。いじめを防止し、みんなが安心して学校生活を送るため、学校の先生方、地域の方、警察など、それぞれの立場で「協力できる態勢を作っているよ。」というメッセージも伝わりました。いじめというもの、家庭での役割について、改めて考えるきっかけとなりました。(PTA)



※皆さまからの貴重なご意見を参考に、今後の取組に生かしていきたいと思ひます。